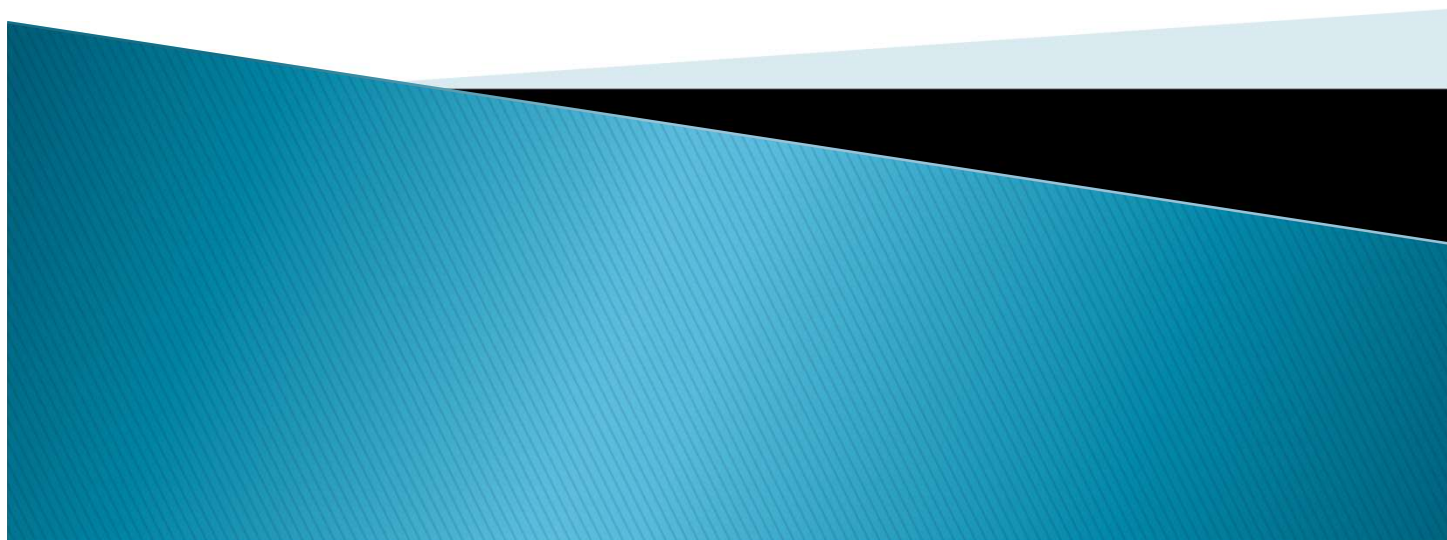


年報

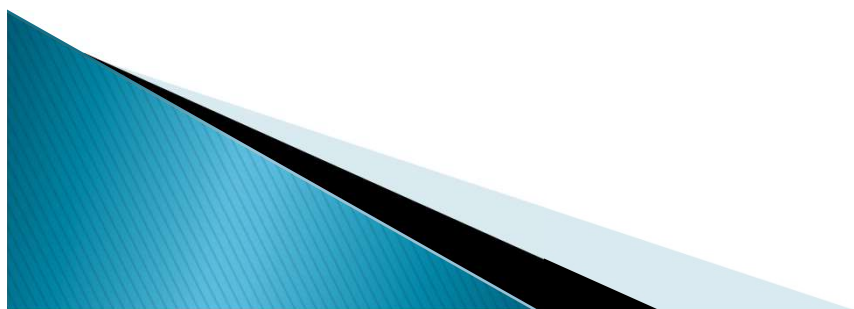
医療法人社団協友会 吉川中央総合病院

2018



目次

病院概要	1
沿革	3
事業計画	4
業績(医師)	8
業績(医師以外)	9
組織図	11
委員会組織図	12
臨床実績 年次報告	13
各部署 年次報告	34
医療安全管理室	36
薬剤部	37
リハビリテーション科	38
検査科	39
放射線科	41
栄養科	42
総務課	43
医事課	44
患者家族支援課	45
健康管理科	46



◆医療法人社団協友会 吉川中央総合病院◆

【開設】 1974年9月

【所在地】 〒342-0056
埼玉県吉川市平沼111番地
TEL 048-982-8311(代)
FAX 048-981-2062
URL <http://www.yoshikawa-hp.or.jp>

【開設者】 理事長 平岡 邦彦

【管理者】 院長 長澤 重直
事務長 河原 卓二
看護部長 吉村 久美子

【病院理念】 患者様中心の質の高い医療

【基本理念】

1. 当院は、24時間救急医療に対応します。
2. 当院は、インフォームド・コンセントに基づいた医療を提供します。
3. 当院は、チームで医療と看護を行います。
4. 当院は、医療連携を推進し、地域医療に貢献します。
5. 当院は、在宅ケアを積極的に推進します。
6. 当院は、質の高い緩和ケアを提供します。
7. 当院の臨床倫理方針に基づいた医療を提供します。

【診療科目】 内科 / 外科 / 消化器科 / 整形外科 / 脳神経外科 /
小児科 / 眼科 / 皮膚科 / 耳鼻咽喉科 / 泌尿器科 /
リハビリテーション科/麻酔科

【各種部門】 診療部 / 看護部 / 診療技術部(薬剤科・放射線科・
検査科・リハビリテーション科・患者家族支援課・
栄養科) / 事務部(医事課・総務課・経理課・
健康管理課・診療情報管理室・メディカルクラーク・
システム管理室 等)

【職員数】 379名（常勤） 104名（非常勤）

【病床数】 272床

【延床面積】 12,870.30 m²

【敷地面積】 6,464.47 m²

【指定施設】 保健取扱指定医療機関 / 労災保険指定医療機関 / 救急告示病院 / 第二次救急医療病院群輪番制病院 / 生活保護法指定医療機関 / 結核予防法指定医療機関 / 原子爆弾被爆者一般医療指定機関 / 感染症指定届出医療機関 / 身体障害者福祉法第15条指定医（肢体不自由・ぼうこう又は直腸の機能障害） / 日本外科学会外科専門医制度研修施設 / 日本整形外科学会専門医制度研修施設 / 日本がん治療認定機構認定研修施設

【研修実施施設】 看護専門学校実習施設 / 理学療法士 / 管理栄養士 / 医療事務

【基準認可】 急性期一般入院料4 / 障害者施設等入院基本料10対1 / 療養病棟入院基本料1 / 緩和ケア病棟入院料 / 回復期リハビリテーション入院料1 / 診療録管理体制加算1 / 医師事務作業補助体制加算20対1 / 急性期看護補助体制加算25対1 / 夜間100対1急性期看護補助体制加算 / 医療安全対策加算1 / 感染防止対策加算2 / 特殊疾患入院施設管理加算 / 療養病棟療養管理加算1 / 病棟薬剤業務実施加算 / 後発医薬品使用体制加算1 / データ提出加算2(イ) / がん患者指導管理料 / 外来化学療法加算1 / 薬剤管理指導料 / 麻酔管理料 / 検体検査管理加算2 / コンタクトレンズ検査料1 / 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 / 無菌製剤処理料 / 輸血管理料2 / 輸血適正使用加算 / 退院支援加算1 / 認知症ケア加算2 / 胃瘻増設術胃瘻増設時嚥下機能評価加算 / 精神疾患診療体制加算 / 脳血管疾患リハビリテーション料1 / 運動器リハビリテーション料1 / 呼吸器リハビリテーション料1 / がん患者リハビリテーション料

【併設施設】 吉川市第3地域包括支援センター
居宅介護支援事業所吉川中央

病院沿革

- 1974年 9月 吉川中央病院開設 病床数102床
- 1978年 7月 医療法人社団中央米寿会 吉川中央病院に組織変更
- 1981年 3月 病床数78床増床(180床) ※許可ベッド165床
- 8月 医療法人社団協友会 吉川中央病院に名称変更
- 1998年 4月 病床数15床増床(195床)
- 1999年 6月 吉川中央総合病院へ名称変更
- 3月 訪問看護ステーション開設
- 2000年 4月 在宅介護支援センター開設
- 4月 訪問介護ステーション開設
- 2003年 4月 病床数84床増床(279床)
- 4月 マンモグラフィ導入
- 2006年 7月 介護型療養病棟84床に
- 11月 訪問リハビリテーション事業所開設
- 2007年 7月 許可ベッド数279床から273床へ減床
- 7月 訪問介護ステーション休止
- 2009年 1月 医療法人社団協友会 理事長変更 中村秀夫から中村康彦へ
- 4月 DPC対象病院認定
- 2012年 9月 介護型療養病棟84床を医療型療養病棟84床に変更
- 2013年 1月 新棟A棟竣工
- 1月 MRI(1.5T)導入
- 1月 CT(64列)導入
- 2月 許可ベッド数273床から264床へ減床
- 11月 電子カルテ運用開始
- 2014年 9月 新棟B棟竣工
- 10月 許可ベッド数264床から272床へ増床
- 2015年 2月 医療法人社団協友会 理事長変更 中村康彦から平岡邦彦へ
- 7月 (財)日本医療機能評価機構(3rd.G ver1.0)認定
- 11月 日本がん治療認定医機構認定研修施設認定

2018年度事業計画

【AMG基本施策】

1. 患者中心の医療の推進

- ◇患者の意思を尊重した医療の提供
- ◇多職種の特門チームによる積極介入
- ◇断らない迅速な医療の実践
- ◇Webサイト活用による情報提供の充実

2. 地域と密着した医療の実践

- ◇地域医療構想に基づく病床機能の再編
- ◇認知症施策(新オレンジプラン)の推進
- ◇在宅医療サービスの強化
- ◇医療・介護連携強化

3. 健全経営の継続

- ◇中長期計画実現に向けての目標管理
- ◇診療報酬・介護報酬ダブル改定の迅速な対応
- ◇BCP(事業継続計画)の構築
- ◇適正人員・適正配置の執行
- ◇予防医学・保険外収入の拡大
- ◇徹底した経費削減

4. 人材の育成

- ◇経営人材の育成・輩出強化
- ◇次世代を担う人材育成と働き方支援
- ◇専門資格取得支援
- ◇職員の個別能力評価・能力開発への取り組み

5. 継続的質改善の取り組み

- ◇施設基準を遵守するための体制の継続
- ◇第三者評価の受審による改善活動の継続
- ◇医療の質評価(QI)の活用
- ◇医療安全・感染制御体制の充実
- ◇幹部・管理職の連携とリーダーシップの発揮

【事業計画】

病院稼働目標	一般病棟	90.8%
全体 92.6%	障害者病棟	95.5%
	療養病棟	94.4%
	回復期リハ病棟	93.3%
	緩和ケア病棟	92.9%

	目標	実績
入退院数	10.0人/日	8.5人/日

今年度の1日平均在床は前年比で+10床以上を目標としており、特に慢性期病棟については、常時高稼働を視野に入れてベッドコントロールを行う。

患者回転率を向上するために、1日平均入院患者数10名と掲げ、スムーズな運用を可能とする環境の整備に努める。

救急体制の強化

救急受け入れ件数については、145件前後で例年推移している。平成29年8月より、「埼玉県東部地域消化管出血輪番制」の仮運用に手上げを行い、月2回参加をしている。平成30年1月より本運用となり、当番日の増加に努める。また当直医時間帯に対する複数診療科対応の継続を行う。

回復期リハビリテーション病棟施設基準ランクアップ

回復期リハビリテーション病棟入院基本料3から2へ施設基準のランクアップを目指す。人員の整備をすすめるとともに、術後早期に転棟を行うことができる運用とし、基準を満たすデータ整備を10月を目標にすすめる。

ADL維持向上体制加算

疾患別リハビリテーションの介入が少ない2A病棟を対象として、当加算の新規届出を行う。上半期に対象者の研修を修了させ、10月からの算定を目指す。

診療報酬改定への取り組み

平成30年度診療報酬改定に対する必須届出事項を速やかに行うとともに、新規届出を積極的に行う検証会を定期的を実施する。

【中長期計画】

1. 質の高い医療の提供

- ・常勤医師の招聘と増員(内科・脳神経外科・整形外科)
- ・地域包括ケアシステムに対する整備
- ・医療の質評価指標の評価
- ・行政の方向性と整合性と地域ニーズにあった経営方針の確立
- ・機能評価係数Ⅱを高めるための取り組み

2. 医療提供体制の強化

- ・救急受け入れ体制の強化 年間2000件以上
- ・専門科当直(脳神経外科)の充実
- ・障害者病棟に対する他入院基本料への見直し
- ・一般病棟増床
- ・24時間内視鏡検査実施体制の構築
- ・医療機関完結型の医療からの脱却

3. 人財育成の強化

- ・次期管理職の育成
- ・新専門医制度への取り組み
- ・看護師復職支援の充実
- ・個別能力評価の実施
- ・地域連携、包括ケアを担う人財の育成
- ・職員寮の改築

医師業績集 [学会・研究会並びに著書・執筆活動]

氏名	診療科	月日	発表学会名 または掲載誌	学術発表及び演題名
篠原 浩一	緩和ケア内科	平成30年6月15-16日	第23回日本緩和医療学会学術大会	「緩和ケア病棟に入れなかった症例の検討 -地域のニーズとのミスマッチをなくすために」
小島 一人	化学療法科	平成30年10月19日	第56回日本癌治療学会学術集会	TS-1療法とG-SOX療法にて長期SDが得られている癌性腹膜炎を伴う進行胃癌の一例

看護・コメディカル・事務 その他業績集

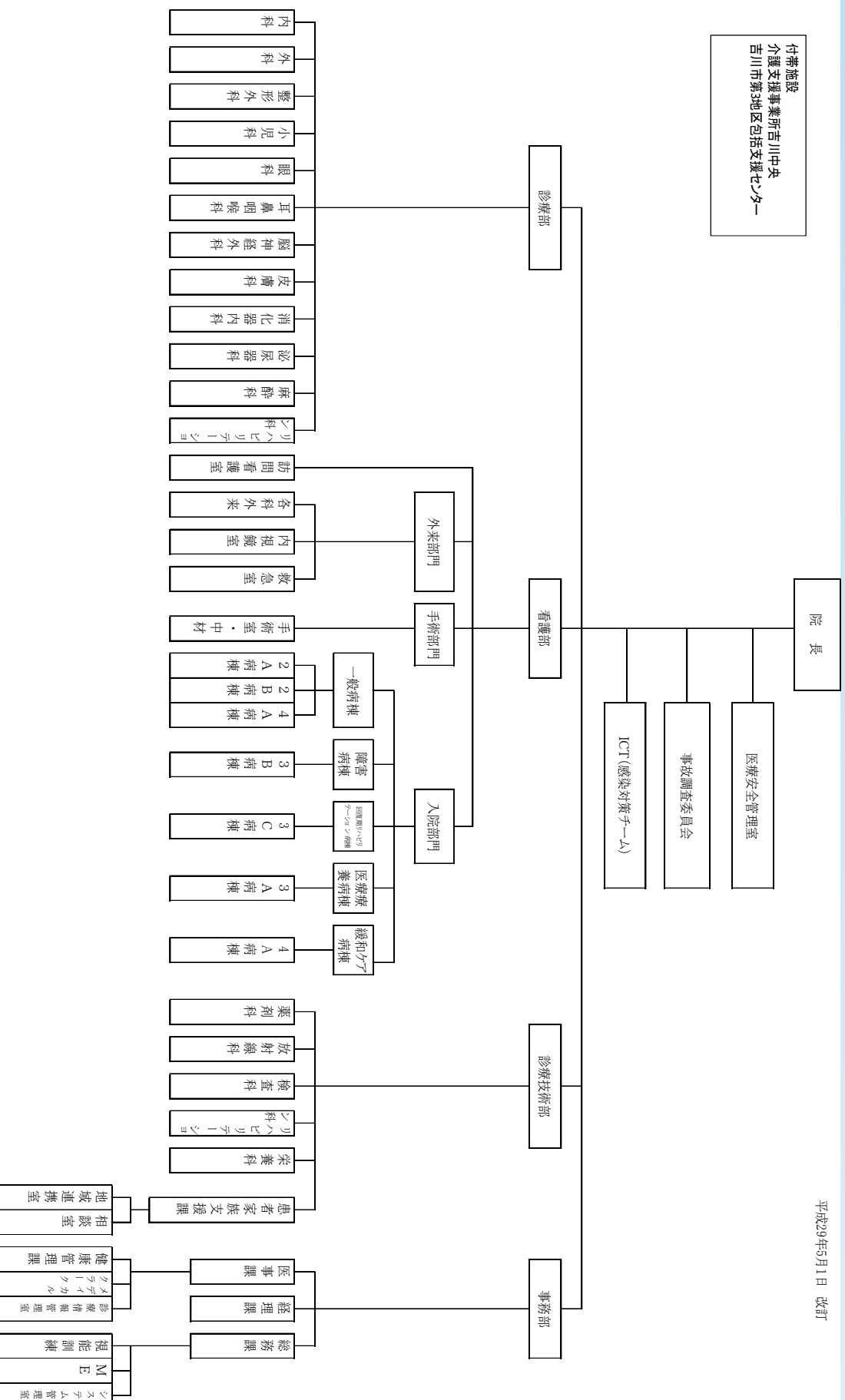
[学会・研究会並びに著書・執筆活動]

氏名	部署	月日	発表学会名 または掲載誌	学術発表及び演題名
宇都 健一郎	4C	2018年4月1日	メディカルフレンド	「看護技術」認定看護分野Q&A緩和ケア編
石川 久美子	訪問	2018年10月10日	日本内科学会雑誌	人生最終段階における医療を実践する訪問看護とは～地域医療における在宅看取り事例をととして(患者・家族に寄り添う訪問)～
小倉 大和	リハビリテーション科	2019年2月3日	第54回 AMG学会	リハビリテーション専門職の病棟専従による多職種連携の効果～病棟専従からADL維持向上等体制加算算定まで～
笹川 拓也	放射線科	2018年9月1日	全日本病院協会雑誌第29巻	放射線科におけるデータを活用したマネージメントの勧め
		2018年10月6日	全日本病院学会	「放射線科の人事評価紹介(ラダーや目標管理の活用方法)」
		2019年1月9日	羅針盤	放射線科における絶対考課と賞与反映への取り組み
		2019年3月8日	全国病院経営管理学会 診療放射線業務委員会報告会	「放射線技師の進むべき未来像(MRI)」
藤川 奈緒美	放射線科	2018年8月25日	AMG放射線部MRI技術研究会	「MRIアーチファクトについて」
藤川 奈緒美 伊藤 正人	放射線科	2019年2月3日	AMG学会	「当院における再撮基準」
野本 隆之	検査科	2018年5月12日	第67回日本医学検査学会	腹部超音波における肝腎コントラスト偽陽性改善走査法(肋間HRC)の有用性について
		2018年6月9日	埼玉県臨床検査技師会研修会	埼玉県生理検査CD-ROM画像サーベイ報告会, 腹部超音波の解答
		2018年7月22日	生理検査・臨床化学検査研究班合同研修会	血液ガスの精度管理と読み方～血液ガスサーベイの問題点と今後の取り組みに向けて～
		2018年8月11日	埼玉県臨床検査技師会研修会	腹部スクリーニング～診断精度を高める手技を習得しよう～
		2018年8月12日	埼玉県臨床検査技師会研修会	腹部超音波実技講習会 スクリーニングから急性腹症アプローチまで! 実技
		2019年3月19日	平成30年度埼玉県医師会臨床検査精度管理講習会	埼玉県医師会サーベイ 生理検査・血液ガスの結果とその解釈について

病院組織図

平成29年5月1日 改訂

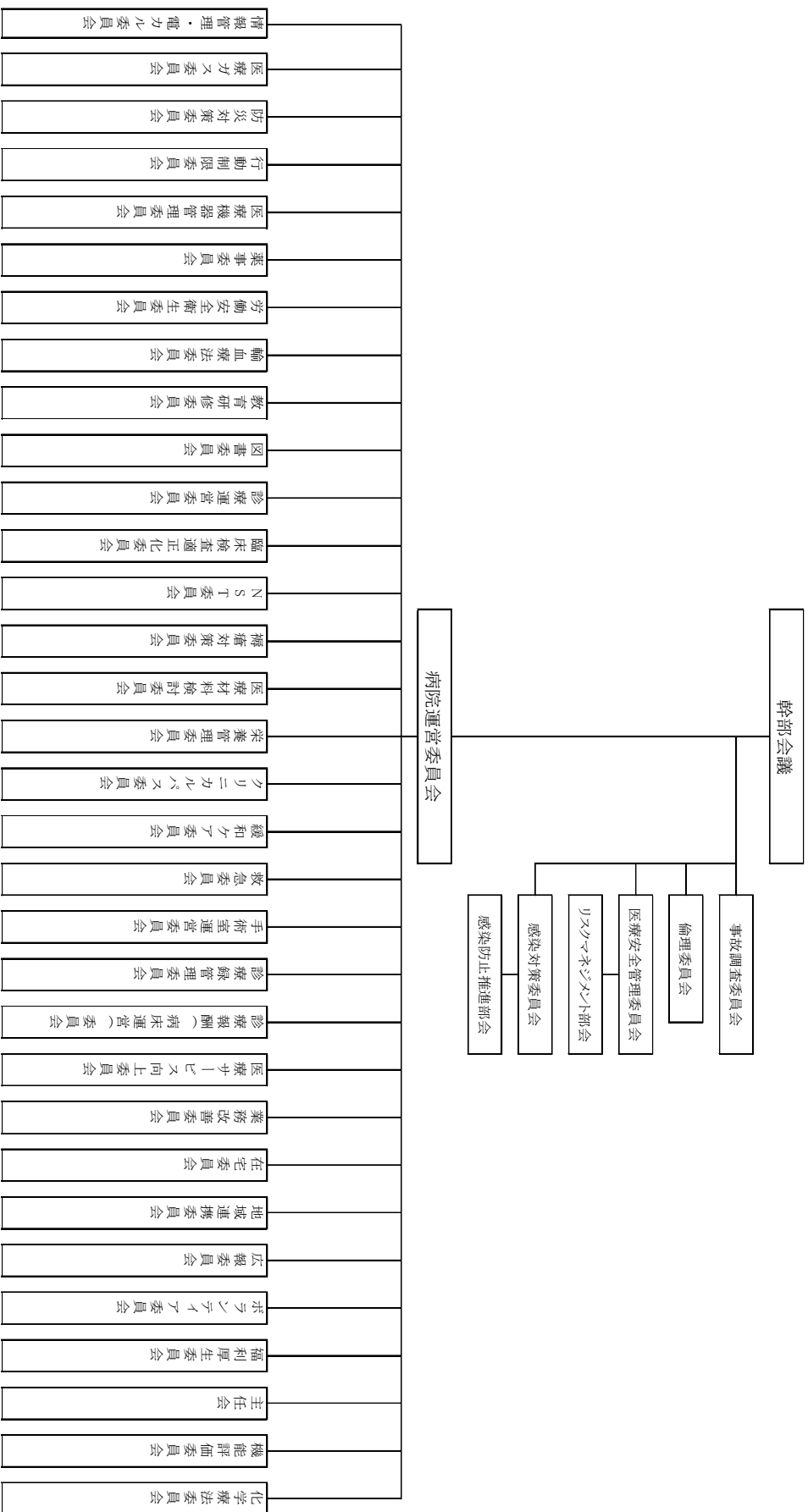
付帯施設
介護支援事業所吉川中央
吉川市第3地区包括支援センター



委員会組織図

吉川中央総合病院 委員会・会議組織図

平成29年5月1日改訂



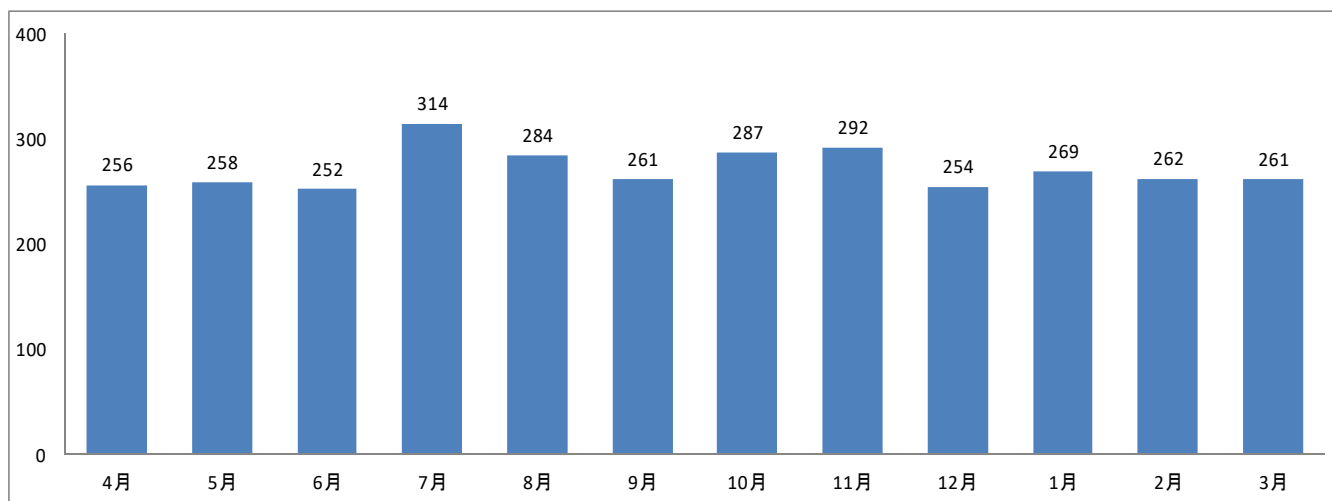
平成30年度
臨床実績 年次報告

2019年3月31日現在

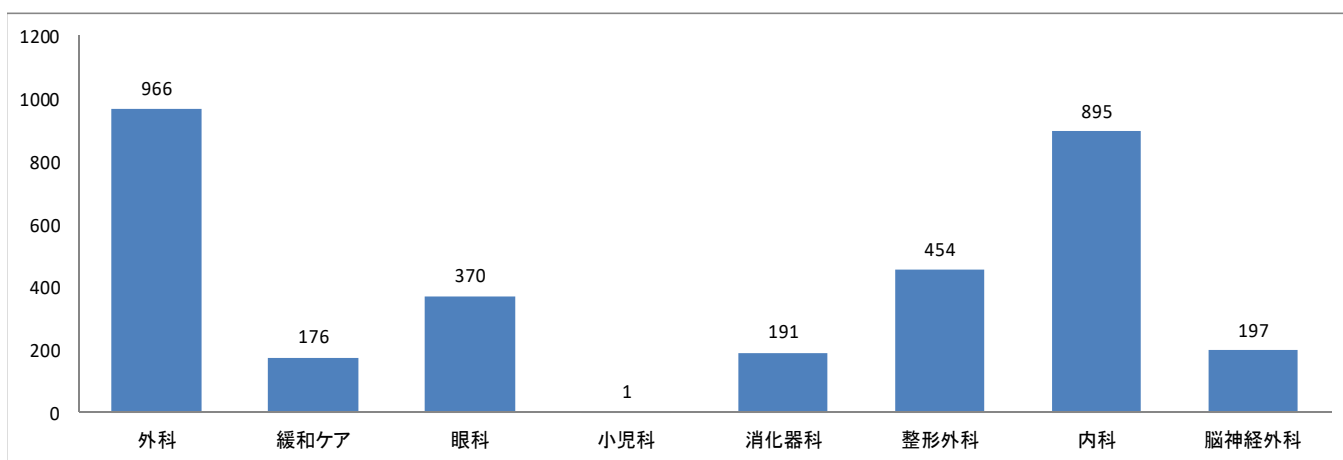
【平成30年度 診療科別・月別 新規入院患者数】

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	診療科総計
外科	89	91	69	101	81	80	80	77	76	73	72	77	966
緩和ケア	14	22	18	12	15	13	12	23	13	10	10	14	176
眼科	39	29	37	35	32	18	29	39	22	25	32	33	370
小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
消化器科	14	11	18	16	15	13	21	15	18	18	16	16	191
整形外科	28	40	34	39	36	41	45	37	40	41	38	35	454
内科	55	54	58	93	91	76	85	77	67	85	85	69	895
脳神経外科	17	11	18	18	14	20	15	24	18	17	9	16	197
総計	256	258	252	314	284	261	287	292	254	269	262	261	3250

【月別 新規入院患者数】



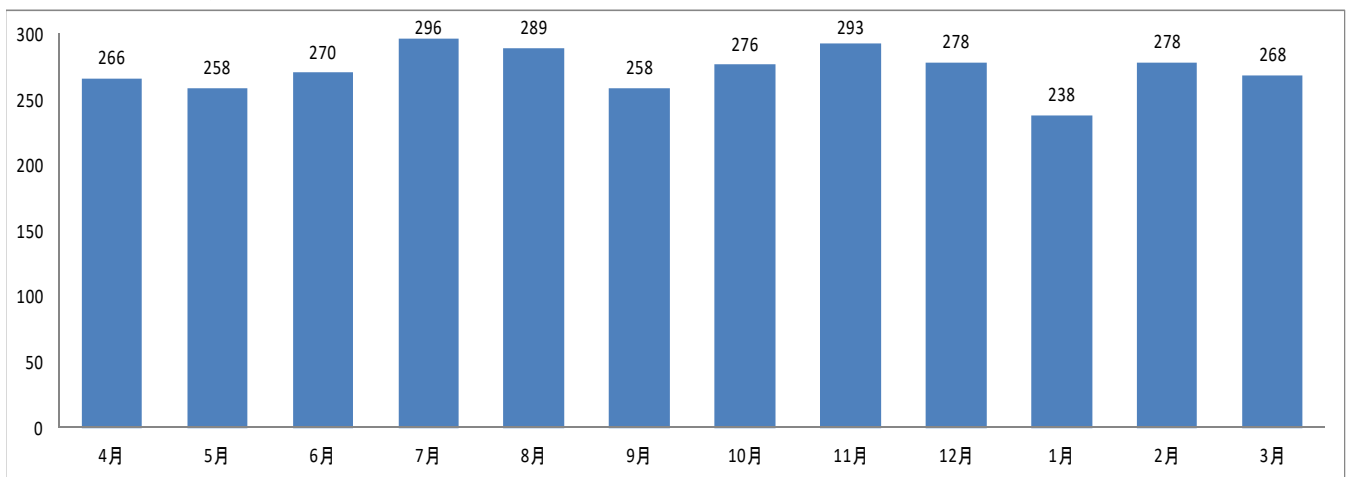
【診療科別 年間新規入院患者数】



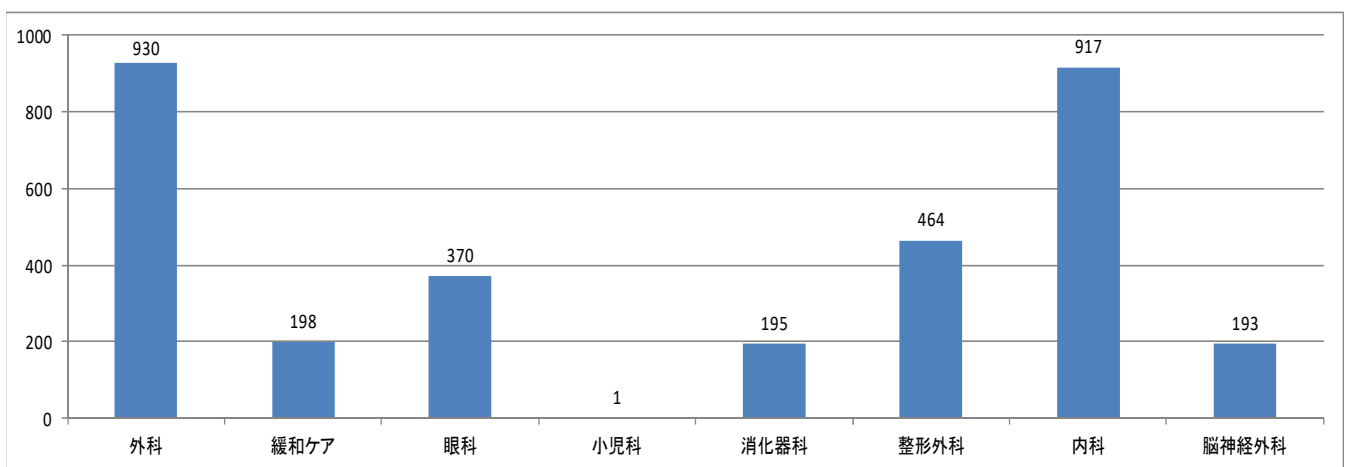
【平成30年度 診療科別・月別 退院患者数】

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	診療科総計
外科	75	90	70	102	83	70	81	73	77	60	76	73	930
緩和ケア	17	20	19	13	20	15	16	17	18	10	18	15	198
眼科	39	26	40	35	31	19	29	38	23	25	29	36	370
小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
消化器科	14	11	15	21	15	14	19	20	18	16	16	16	195
整形外科	38	38	36	37	49	35	37	39	49	32	38	36	464
内科	60	66	64	77	81	89	78	87	74	80	86	75	917
脳神経外科	23	7	26	11	10	16	16	19	19	15	15	16	193
総計	266	258	270	296	289	258	276	293	278	238	278	268	3268

【月別退院患者数】



【診療科別 年間退院患者数】



【平成30年度 診療科別・在院期間別・性別・退院患者数】

診療科	性別	1～8日	～15日	～22日	～31日	～61日	～91日	～6ヶ月	～1年	1年以上	総計
外科	女	183	101	35	16	22	1			1	359
	男	303	151	53	29	31	2	1	1		571
	計	486	252	88	45	53	3	1	1	1	930
緩和ケア	女	32	19	12	7	15	9	1	1		96
	男	31	24	13	12	15	4	2	1		102
	計	63	43	25	19	30	13	3	2		198
眼科	女	185									185
	男	185									185
	計	370									370
小児科	女	1									1
	男										
	計	1									1
消化器科	女	63	13	5	2	4		1	1		89
	男	64	16	6	8	8	1	2	1		106
	計	127	29	11	10	12	1	3	2		195
整形外科	女	51	28	29	35	63	38	21	1		266
	男	77	33	19	15	38	10	5	1		198
	計	128	61	48	50	101	48	26	2		464
内科	女	132	69	59	57	91	37	29	28	17	519
	男	119	70	48	28	69	21	16	17	10	398
	計	251	139	107	85	160	58	45	45	27	917
脳神経外科	女	18	12	12	8	17	7	7	2		83
	男	32	18	6	10	19	9	12	4		110
	計	50	30	18	18	36	16	19	6		193
総計	女	665	242	152	125	212	92	59	33	18	3268
	男	811	312	145	102	180	47	38	25	10	1531
	計	1476	554	297	227	392	139	97	58	28	3268

【平成30年度 診療科別・年齢層・性別・退院患者数】

診療科	性別	0～9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65～69歳	70代	80代	90歳以上	診療科総計
外科	女		6	20	11	31	44	22	44	103	59	19	359
	男		8	13	32	68	78	33	67	159	94	19	571
	計		14	33	43	99	122	55	111	262	153	38	930
緩和ケア	女				1	6	16	11	7	39	14	2	96
	男						2	2	12	56	29	1	102
	計				1	6	18	13	19	95	43	3	198
眼科	女					2		7	12	111	38	15	185
	男		1				13	12	25	92	39	3	185
	計		1			2	13	19	37	203	77	18	370
小児科	女	1											1
	男												
	計	1											1
消化器科	女			2		2	2	7	8	38	22	8	89
	男			1	4	5	7	3	19	55	12		106
	計			3	4	7	9	10	27	93	34	8	195
整形外科	女	2	11	3	6	12	12	14	21	58	85	42	266
	男	5	13	8	20	26	21	20	20	34	28	3	198
	計	7	24	11	26	38	33	34	41	92	113	45	464
内科	女		1	5	7	7	11	8	22	105	191	162	519
	男		1	8	5	21	25	12	26	103	148	49	398
	計		2	13	12	28	36	20	48	208	339	211	917
脳神経外科	女		2	3	1	2	5	3	3	28	24	12	83
	男		1	4	2	7	2	5	14	37	29	9	110
	計		3	7	3	9	7	8	17	65	53	21	193
総計	女	3	20	33	26	62	90	72	117	482	433	260	1568
	男	5	24	34	63	127	148	87	183	536	379	84	1531
	計	8	44	67	89	189	238	159	300	1018	812	344	3268

【平成30年度 診療科別・診療圏別 退院患者数】

診療科	性別	吉川市	越谷市	三郷市	八潮市	草加市	松伏町	野田市	県内その他	埼玉県外	総計
外科	女	242	48	23	17	3	11	1	6	8	359
	男	376	80	37	30	6	21	2	6	13	571
	計	618	128	60	47	9	32	3	12	21	930
緩和ケア	女	19	37	4	5	2	18		7	4	96
	男	28	37	6	8	3	15		3	2	102
	計	47	74	10	13	5	33		10	6	198
眼科	女	147	8	4	20		2	2		2	185
	男	154	13	4	12		2				185
	計	301	21	8	32		4	2		2	370
小児科	女	1									1
	男										
	計	1									1
消化器科	女	47	16	1	3		18			4	89
	男	78	10	8	2	1	5		1	1	106
	計	125	26	9	5	1	23		1	5	195
整形外科	女	178	39	9	20	4	5	3	1	7	266
	男	130	27	9	9	1	7	1	7	7	198
	計	308	66	18	29	5	12	4	8	14	464
内科	女	304	128	13	23		20	1	6	24	519
	男	249	86	14	20	1	9		5	14	398
	計	553	214	27	43	1	29	1	11	38	917
脳神経外科	女	38	26	3	4	1	3		4	4	83
	男	42	30	6	21	1	1	1	3	5	110
	計	80	56	9	25	2	4	1	7	9	193
総計	女	976	302	57	92	10	77	7	24	53	1568
	男	1057	283	84	102	13	60	4	25	42	1531
	計	2033	585	141	194	23	137	11	49	95	3268

【平成30年度 疾病分類(大分類)別・診療科別・性別 退院患者数】

類番	国際疾病分類	性別	外科	緩和ケア	眼科	小児科	消化器科	整形外科	内科	脳神経外科	大分類総計
I	感染症及び寄生虫	女	34			1	3	1	24		63
		男	42				2		9	1	54
		計	76			1	5	1	33	1	117
II	新生物	女	56	90			17	1	17	4	185
		男	112	91			32		24	5	264
		計	168	181			49	1	41	9	449
III	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	女	6	3				1	13		23
		男	5	2			3		10	1	21
		計	11	5			3	1	23	1	44
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	女	2					1	29		32
		男	1		2		1	1	20	1	26
		計	3		2		1	2	49	1	58
V	精神および行動の障害	女	2				1		6		9
		男							1	1	2
		計	2				1		7	1	11
VI	神経系疾患	女	3				4	1	32	19	59
		男	1				1	3	18	33	56
		計	4				5	4	50	52	115
VII	眼および付属器の疾患	女			185						185
		男			183						183
		計			368						
VIII	耳および乳様突起の疾患	女	1						8	5	14
		男							4	6	10
		計	1						12	11	24
IX	循環器系疾患	女	6	2			15	2	73	43	141
		男	8				3		35	40	86
		計	14	2			18	2	108	83	227
X	呼吸器疾患	女	4				1	1	198	1	205
		男	12	6			2	2	192	1	215
		計	16	6			3	3	390	2	420
X I	消化器系の疾患	女	228				46	2	45		321
		男	347	1			61	2	28	1	440
		計	575	1			107	4	73	1	761
X II	皮膚および皮下組織の疾患	女	7	1				4	6		18
		男	19					1	8		28
		計	26	1				5	14		46
X III	筋骨格系および結合組織の疾患	女						49	5		54
		男						38	4		42
		計						87	9		96
X IV	腎尿路生殖器系の疾患	女	5				2	2	57	1	67
		男	16	1					22		39
		計	21	1			2	2	79	1	106
X IX	損傷、中毒およびその他の外因の影響	女	1								1
		男	1								1
		計	5						201	6	10
総計		女	7	1			1	151	23	20	203
		男	12	1			1	352	29	30	425
		計	930	198	370	1	195	464	917	193	3268

【平成30年度 疾病分類(大分類)別・在院期間別・性別 退院患者数】

類番	国際疾病分類	性別	1～8日	～15日	～22日	～31日	～61日	～91日	～6ヶ月	～1年	1年以上	大分類総計
I	感染症及び寄生虫	女	34	13	2	2	6	3	1	2		63
		男	33	8	2	4	5	1		1		54
		計	67	21	4	6	11	4	1	3		117
II	新生物	女	64	36	26	18	27	9	2	2	1	185
		男	96	63	32	28	31	7	4	3		264
		計	160	99	58	46	58	16	6	5	1	449
III	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	女	8	5	2	6	2					23
		男	9	3	3	2	1	1	2			21
		計	17	8	5	8	3	1	2			44
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	女	10	4	1	2	4	4	2	2	3	32
		男	9	4	1	1	5	1	3	1	1	26
		計	19	8	2	3	9	5	5	3	4	58
V	精神および行動の障害	女	8		1							9
		男	2									2
		計	10		1							11
VI	神経系疾患	女	21	6	10	2	10	6	1	1	2	59
		男	31	5	4	5	3	4	3	1		56
		計	52	11	14	7	13	10	4	2	2	115
VII	眼および付属器の疾患	女	185									185
		男	183									183
		計	368									368
VIII	耳および乳様突起の疾患	女	10	2	2							14
		男	9	1								10
		計	19	3	2							24
IX	循環器系疾患	女	42	7	17	15	27	9	11	7	6	141
		男	17	20	7	4	18	6	9	3	2	86
		計	59	27	24	19	45	15	20	10	8	227
X	呼吸器疾患	女	28	36	25	28	44	16	12	11	5	205
		男	38	43	32	19	50	11	8	10	4	215
		計	66	79	57	47	94	27	20	21	9	420
X I	消化器系の疾患	女	176	81	25	7	19	4	4	4	1	321
		男	257	108	33	18	20	2	2			440
		計	433	189	58	25	39	6	6	4	1	761
X II	皮膚および皮下組織の疾患	女	3	7	4	1	2		1			18
		男	14	3	2	2	3	2		2		28
		計	17	10	6	3	5	2	1	2		46
X III	筋骨格系および結合組織の疾患	女	9	10	7	11	8	4	4	1		54
		男	14	9	5	3	7	2	1		1	42
		計	23	19	12	14	15	6	5	1	1	96
X IV	腎尿路生殖器系の疾患	女	18	12	7	9	10	4	5	2		67
		男	15	9	9	3		2	1			39
		計	33	21	16	12	10	6	6	2		106
X IX	損傷、中毒およびその他の外因の影響	女	1									1
		男	1									1
		計	49	23	23	24	53	33	16	1		222
総計		女	83	36	15	13	37	8	5	4	2	203
		男	132	59	38	37	90	41	21	5	2	425
		計	1476	554	297	227	392	139	97	58	28	3268

【平成30年度 疾病分類(大分類)別・年齢層別・性別 退院患者数】

類番	国際疾病分類	性別	0～9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65～69歳	70代	80代	90歳以上	大分類総計
I	感染症及び寄生虫	女	1	3	9	7	6	4	2	2	9	12	8	63
		男		2	8	3	6	8	1	8	7	6	5	54
		計	1	5	17	10	12	12	3	10	16	18	13	117
II	新生物	女				2	9	24	17	8	83	31	11	185
		男					11	12	6	43	118	63	11	264
		計				2	20	36	23	51	201	94	22	449
III	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	女						1		2	8	6	6	23
		男						2		1	8	7	3	21
		計						3		3	16	13	9	44
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	女						1		1	6	14	10	32
		男			1	1	7	2	1	4	3	5	2	26
		計			1	1	7	3	1	5	9	19	12	58
V	精神および行動の障害	女		1	2			2				1	3	9
		男			1							1		2
		計		1	3			2				2	3	11
VI	神経系疾患	女		1	1	1	3		2	8	16	23	4	59
		男		1	2	1	2	4	1	5	27	13		56
		計		2	3	2	5	4	3	13	43	36	4	115
VII	眼および付属器の疾患	女					2		7	12	111	38	15	185
		男		1				11	12	25	92	39	3	183
		計		1			2	11	19	37	203	77	18	368
VIII	耳および乳様突起の疾患	女			1				1	2	7	2	1	14
		男					2	1		1	5		1	10
		計			1		2	1	1	3	12	2	2	24
IX	循環器系疾患	女						3	2	3	39	48	46	141
		男		1		2	4	6	6	9	22	28	8	86
		計		1		2	4	9	8	12	61	76	54	227
X	呼吸器疾患	女		1	2	3	1	2	5	5	29	86	71	205
		男		1	5	4	7	1	8	11	55	94	29	215
		計		2	7	7	8	3	13	16	84	180	100	420
X I	消化器系の疾患	女		2	10	4	25	36	21	51	98	52	22	321
		男		4	6	26	52	59	30	47	141	66	9	440
		計		6	16	30	77	95	51	98	239	118	31	761
X II	皮膚および皮下組織の疾患	女			2		2				2	6	6	18
		男		1		2	4	2		3	10	5	1	28
		計		1	2	2	6	2		3	12	11	7	46
X III	筋骨格系および結合組織の疾患	女		3	1	3	6	2	3	5	16	12	3	54
		男		2	2	3	5	4	5	4	5	11	1	42
		計		5	3	6	11	6	8	9	21	23	4	96
X IV	腎尿路生殖器系の疾患	女			2	1	3	5	1	1	12	24	18	67
		男			1	3	5	6		3	4	14	3	39
		計			3	4	8	11	1	4	16	38	21	106
X IX	損傷、中毒およびその他の外因の影響	女								1				1
		男								1				1
		計	2	9	3	5	5	10	11	17	46	78	36	222
総計		女	5	11	8	18	22	30	17	18	39	27	8	203
		男	7	20	11	23	27	40	28	35	85	105	44	425
		計	8	44	67	89	189	238	159	300	1018	812	344	3268

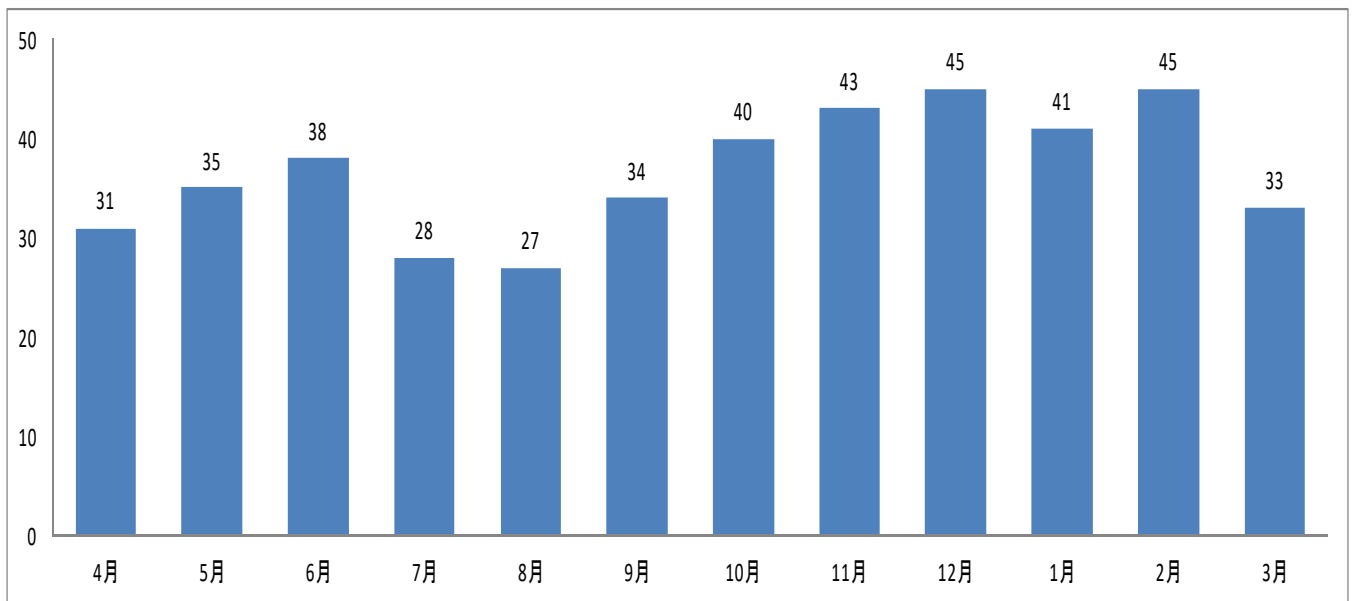
【平成30年度 疾病分類(大分類)別・診療圏別・性別 退院患者数】

類番	国際疾病分類	性別	吉川市	越谷市	三郷市	松伏町	八潮市	草加市	野田市	県内その他	埼玉県外	大分類総計
I	感染症及び寄生虫	女	43	12	1	4					3	63
		男	30	11	2	6		2	1	1	1	54
		計	73	23	3	10		2	1	1	4	117
II	新生物	女	76	46	11	6	2	27		8	9	185
		男	136	54	23	13	7	21	1	4	5	264
		計	212	100	34	19	9	48	1	12	14	449
III	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	女	11	8		1		2			1	23
		男	12	5		2		1			1	21
		計	23	13		3		3			2	44
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	女	21	8	1	1		1				32
		男	16	4	4			2				26
		計	37	12	5	1		3				58
V	精神および行動の障害	女	6	2						1		9
		男		1		1						2
		計	6	3		1					1	11
VI	神経系疾患	女	30	11	1	3		8	1	3	2	59
		男	30	11	4	9	1			1		56
		計	60	22	5	12	1	8	1	4	2	115
VII	眼および付属器の疾患	女	147	8	4	20		2	2		2	185
		男	152	13	4	12		2				183
		計	299	21	8	32		4	2		2	368
VIII	耳および乳様突起の疾患	女	11			2				1		14
		男	4	4		2						10
		計	15	4		4					1	24
IX	循環器系疾患	女	71	45	4	4		9	1	1	6	141
		男	47	25	4	4		1	1		4	86
		計	118	70	8	8		10	2	1	10	227
X	呼吸器疾患	女	109	58	6	10		8		4	10	205
		男	133	43	7	12	1	6		3	10	215
		計	242	101	13	22	1	14		7	20	420
X I	消化器系の疾患	女	221	41	17	16	3	12	1	4	6	321
		男	300	64	26	17	3	14		6	10	440
		計	521	105	43	33	6	26	1	10	16	761
X II	皮膚および皮下組織の疾患	女	12	3		1			1		1	18
		男	18	5	1	3		1				28
		計	30	8	1	4		1	1		1	46
X III	筋骨格系および結合組織の疾患	女	39	6	2	3	2		1		1	54
		男	31	5	1	2		1		1	1	42
		計	70	11	3	5	2	1	1	1	2	96
X IV	腎尿路生殖器系の疾患	女	34	16	4	4		3		1	5	67
		男	27	8		1		1		1	1	39
		計	61	24	4	5		4		2	6	106
X IX	損傷、中毒およびその他の外因の影響	女	1									1
		男	1									1
		計	145	38	6	17	3	5		1	7	222
総計		女	120	30	8	18	1	8	1	8	9	203
		男	265	68	14	35	4	13	1	9	16	425
		計	2033	585	141	194	23	137	11	49	95	3268

【平成30年度 診療科別・月別・性別・死亡退院患者数】

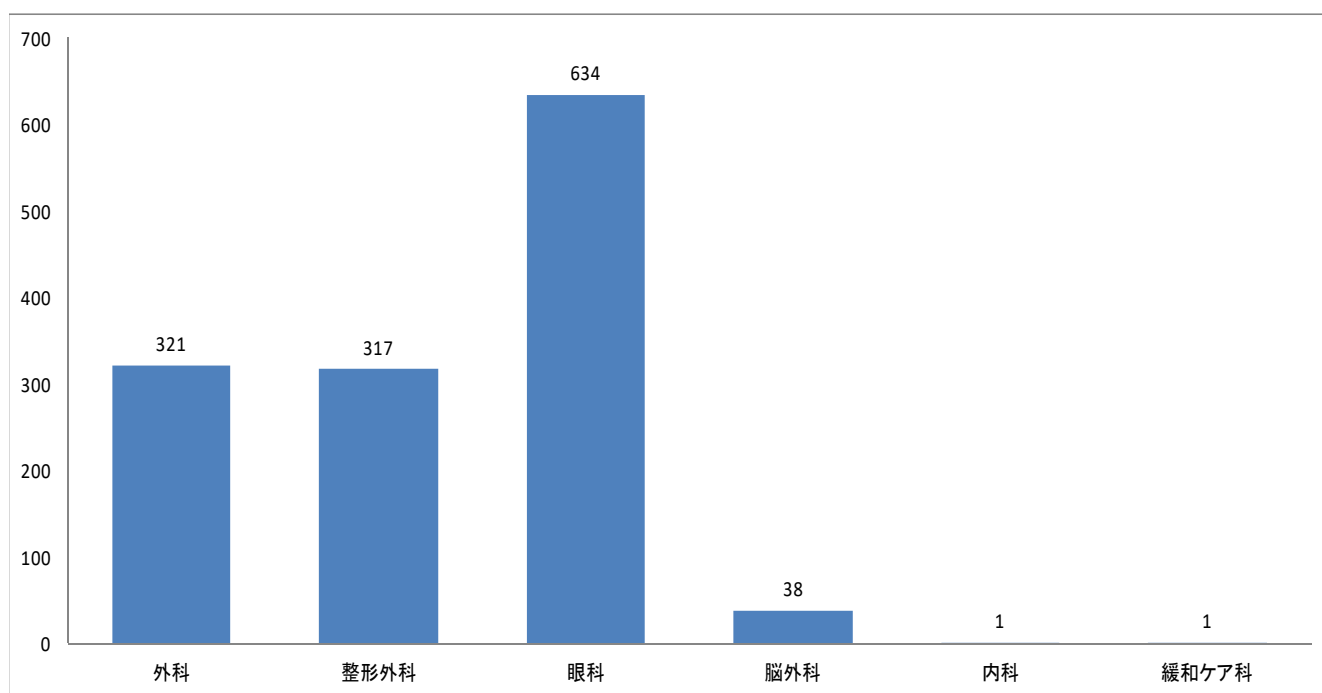
診療科	性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	診療科総計
外科	計	2	2	3	3	4	1	2	1	0	2	4	1	25
	女	1	1	1	2	2	1	1	0	0	2	1	0	12
	男	1	1	2	1	2	0	1	1	0	0	3	1	13
緩和ケア	計	9	13	19	6	13	10	15	12	12	3	13	9	134
	女	5	3	9	1	5	6	7	5	3	2	6	6	58
	男	4	10	10	5	8	4	8	7	9	1	7	3	76
消化器科	計	1	2	0	3	1	1	1	1	0	2	2	2	16
	女	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	2	0	6
	男	0	2	0	1	0	1	1	1	0	2	0	2	10
整形外科	計	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
内科	計	16	18	15	16	9	22	20	28	30	31	24	20	249
	女	9	9	11	9	5	15	9	18	18	15	14	12	144
	男	7	9	4	7	4	7	11	10	12	16	10	8	105
脳神経外科	計	3	0	1	0	0	0	2	1	1	3	2	1	14
	女	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	4
	男	1	0	1	0	0	0	2	1	0	2	2	1	10
月別総計	計	31	35	38	28	27	34	40	43	45	41	45	33	440
	女	18	13	21	14	13	22	17	23	23	20	23	18	225
	男	13	22	17	14	14	12	23	20	22	21	22	15	215

【平成30年度 死亡退院患者数】



【平成30年度 診療科別・月別手術件数】

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総件数
外科	26	39	23	29	21	27	31	33	20	21	24	27	321
整形外科	22	27	24	23	30	22	29	19	29	27	36	29	317
眼科	53	52	57	63	51	44	51	65	41	52	49	56	634
脳外科	4	5	1	1	5	3	5	2	2	3	2	5	38
内科	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
緩和ケア科	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
総計	105	123	105	116	109	96	116	119	92	103	111	117	1312



【平成30年度 診療科別 退院患者統計】

[外科]

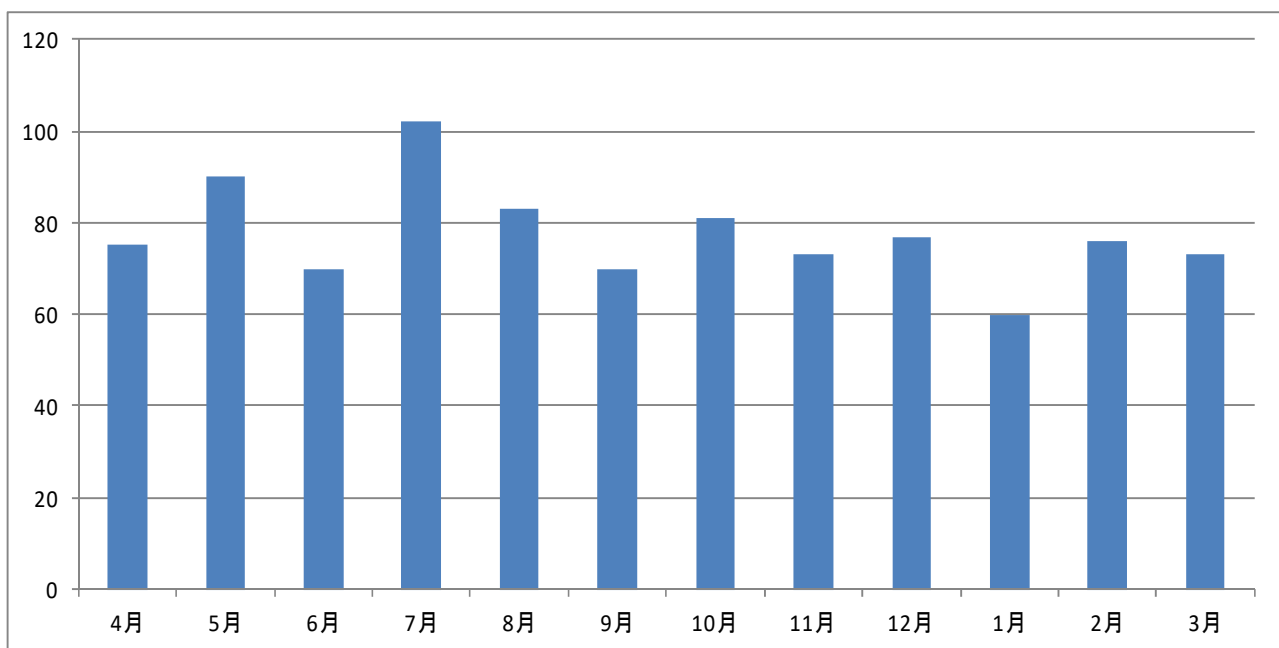
上位疾患

順位	ICD10	疾病分類名(小分類)	件数
1	K635	大腸(結腸)のポリープ	128
2	K573	大腸の憩室性疾患	46
3	K801	胆のう炎を伴う胆のう結石	43
4	K409	鼠径ヘルニア	35
5	K565	癒着性イレウス	33

上位術式

順位	Kコード	術式	件数
1	K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除(直径2cm未満)	147
2	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	66
3	K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	28
4	K6113	抗悪性腫瘍剤動脈内持続注入用埋込型カテーテル設置(頭頸部その他)	23
5	K682-3	内視鏡的経鼻胆管ドレナージ術(ENBD)	20

月別退院患者数



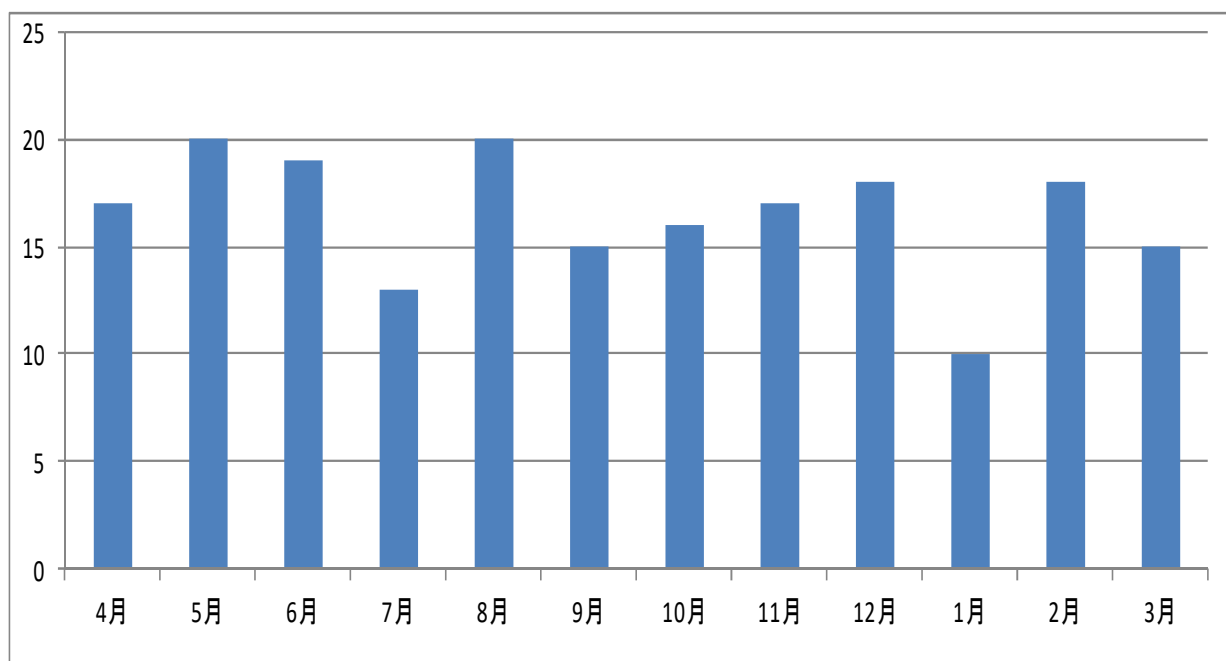
【平成30年度 診療科別 退院患者統計】

[緩和ケア科]

上位疾患

順位	ICD10	疾病分類名(小分類)	件数
1	C349	肺癌【詳細不明】	19
2	C509	乳癌【詳細不明】	10
3	C343	下葉肺癌	9
4	C539	子宮頸部癌【詳細不明】	9
5	C169	胃癌【詳細不明】	8

月別退院患者数



【平成30年度 診療科別 退院患者統計】

[眼科]

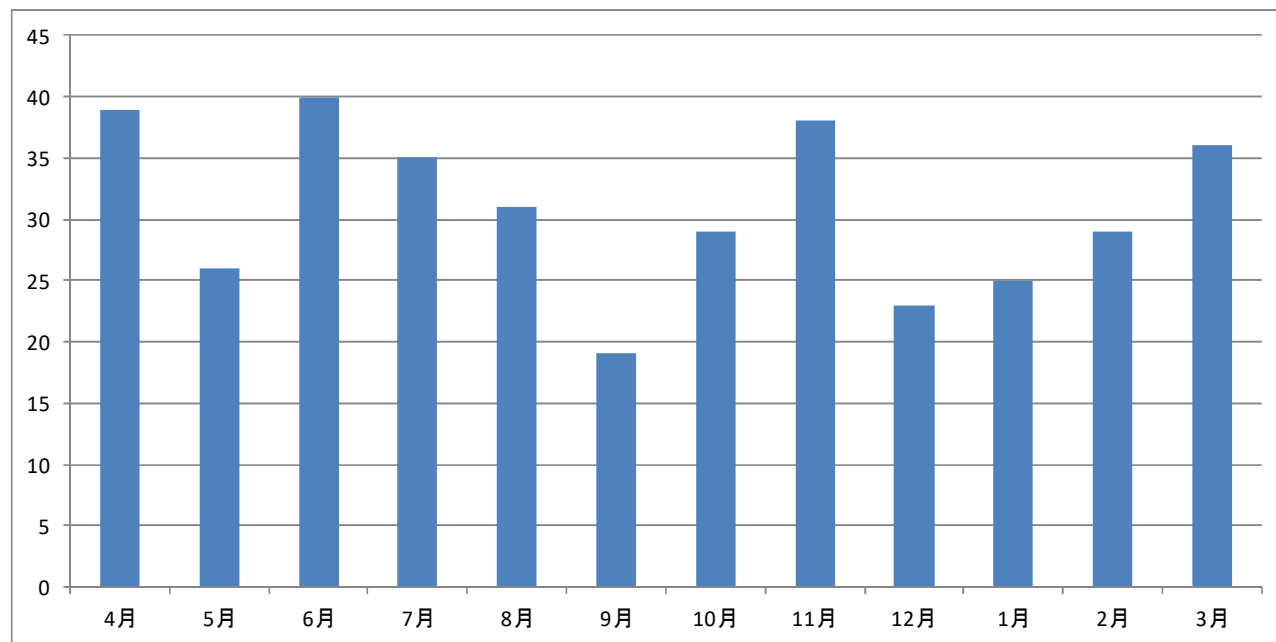
上位疾患

順位	ICD10	疾病分類名(小分類)	件数
1	H250	老人性初発白内障	276
2	H251	老人性核白内障	69
3	H280	糖尿病性白内障	10
4	H252	老人性白内障	3
5	H258	その他の老人性白内障	2
5	H260	初老期白内障	2
5	H401	原発開放隅角緑内障	2

上位術式

順位	Kコード	術式	件数
1	K282	水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)(その他)	361
2	k2822	水晶体再建術(眼内レンズを挿入しない場合)	5
3	k2682	緑内障手術(流出路再建術)	2
4	K2172	眼瞼内反症手術(皮膚切開法)	1
5	K2193	眼瞼下垂症手術(その他)	1

月別退院患者数



【平成30年度 診療科別 退院患者統計】

[消化器科]

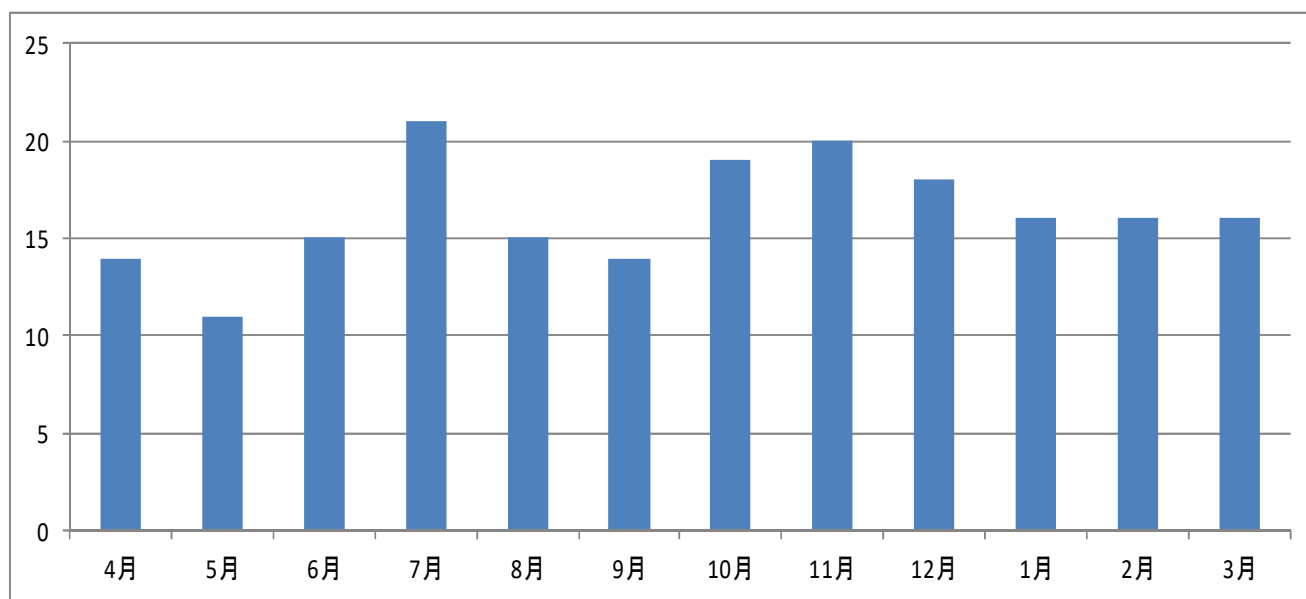
上位疾患

順位	ICD10	疾病分類名(小分類)	件数
1	K635	大腸(結腸)のポリープ	50
2	K573	大腸の憩室性疾患	21
3	C220	肝細胞癌	9
4	K703	アルコール性肝硬変	9
5	C162	胃体部癌	7
5	C186	下行結腸癌	7

上位術式

順位	Kコード	術式	件数
1	K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(直径2cm未満)	43

月別退院患者数



【平成30年度 診療科別 退院患者統計】

[整形外科]

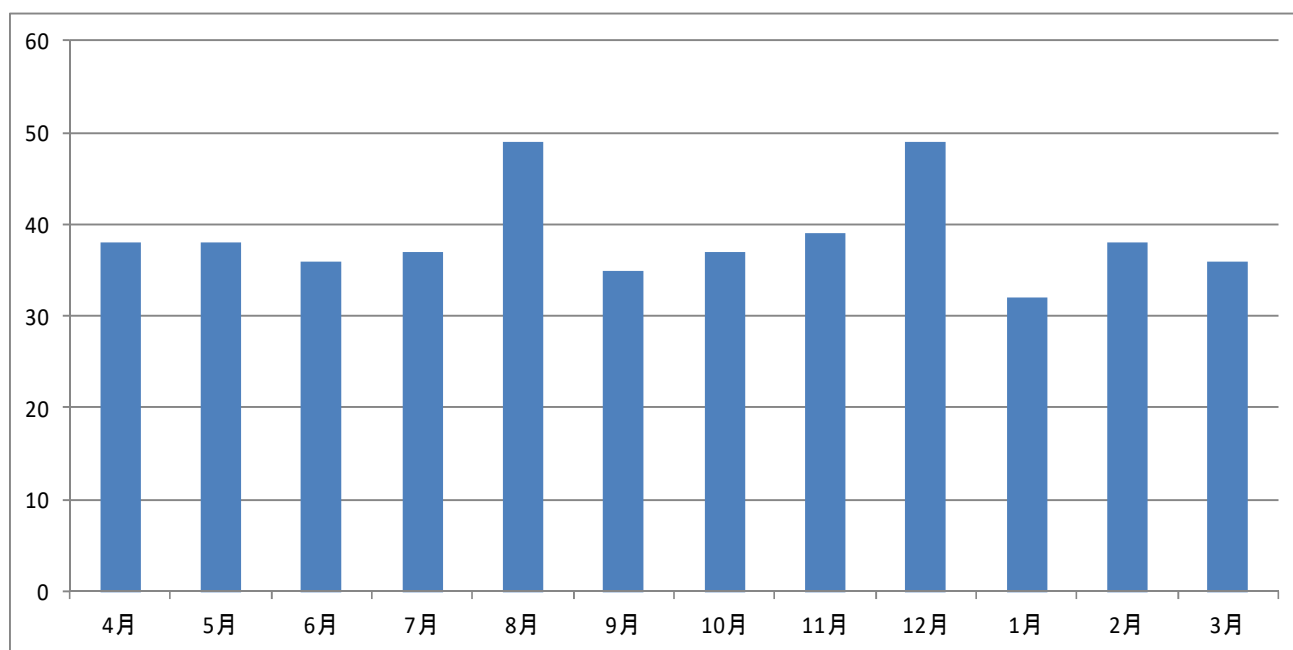
上位疾患

順位	ICD10	疾病分類名(小分類)	件数
1	S7210	大腿骨転子部骨折	38
2	S7200	大腿骨頸部骨折	36
3	S3200	腰椎圧迫骨折	33
4	S5250	橈骨遠位端骨折	30
5	S2200	胸椎骨折	23

上位術式

順位	Kコード	術式	件数
1	K046	骨折観血の手術	96
2	K048	骨内異物(挿入物を含む)除去術	45
3	K082	人工関節置換術	37
4	K073	関節内骨折観血の手術	16
5	K047-3	超音波骨折治療法	11

月別退院患者数



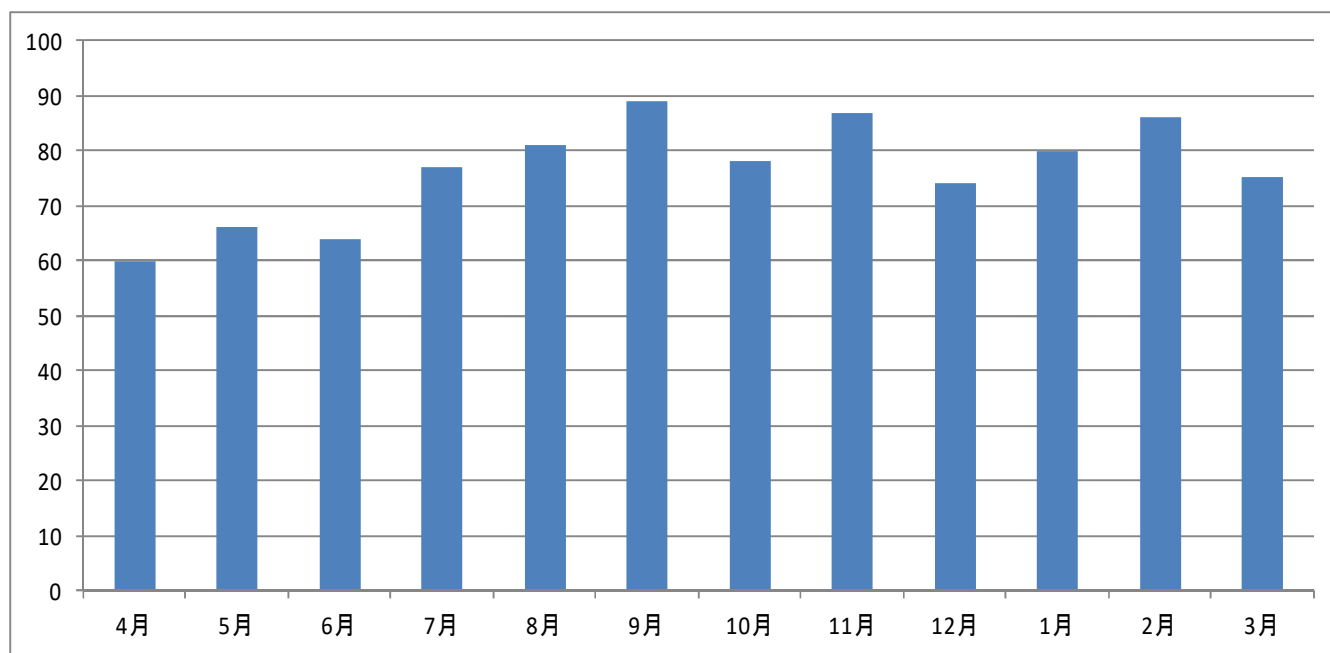
【平成30年度 診療科別 退院患者統計】

[内科]

上位疾患

順位	ICD10	疾病分類名(小分類)	件数
1	J159	細菌性肺炎	124
2	J690	誤嚥性肺炎	109
3	J189	急性肺炎	96
4	N390	尿路感染症	54
5	I693	脳梗塞の続発・後遺症	22

月別退院患者数



【平成30年度 診療科別 退院患者統計】

[脳神経外科]

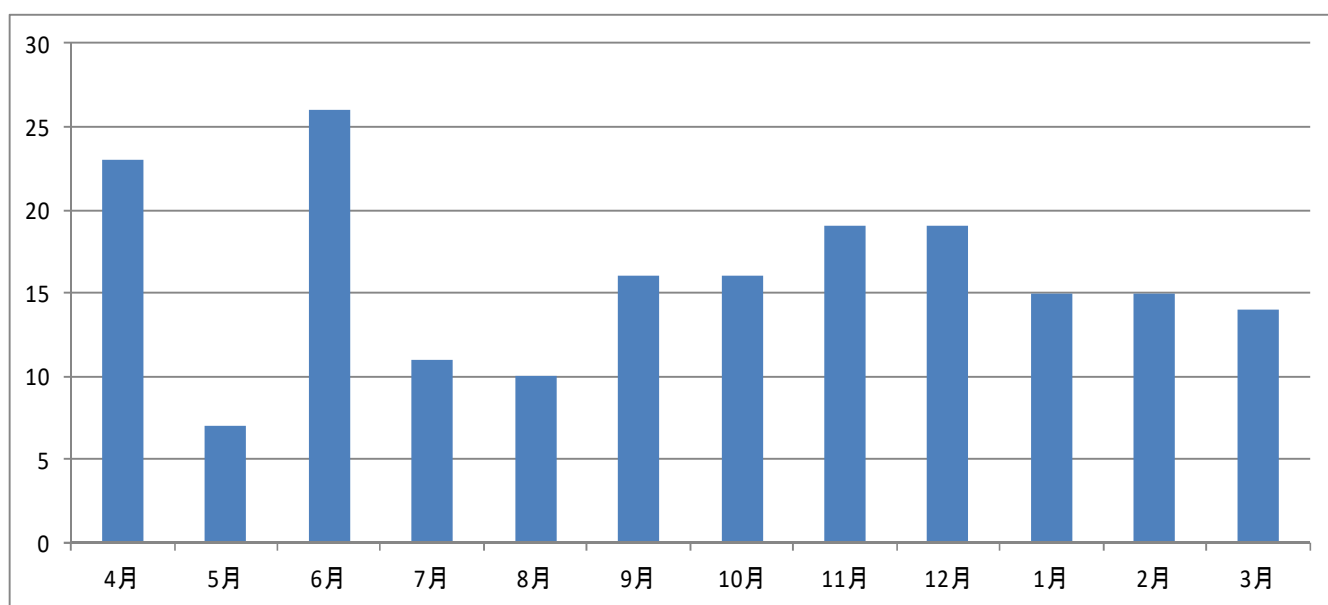
上位疾患

順位	ICD10	疾病分類名(小分類)	件数
1	I633	アテローム血栓性脳梗塞	62
2	G912	正常圧水頭症	26
3	S0650	外傷性硬膜下出血	13
4	I610	(大脳)半球の脳内出血	11
5	G403	全般性特発性てんかん及びびてんかん症候群	10

上位術式

順位	Kコード	術式	件数
1	K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	12
2	K1742	水頭症手術(シャント手術)	11
3	K1643	頭蓋内血腫除去術(その他)	2

月別退院患者数



【平成30年度 年齢別 新規外来患者数統計】

年齢区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	新来院患者数
0日～2歳未満	35	36	41	38	60	19	29	32	30	32	19	33	404
2歳～4歳未満	18	23	24	24	23	10	14	10	16	16	9	13	200
4歳～6歳未満	11	10	8	6	13	7	9	10	17	11	10	8	120
6歳～10歳未満	21	12	11	6	13	7	6	14	17	11	12	7	137
10歳～20歳未満	18	27	19	14	16	19	23	17	23	19	23	16	234
20歳～30歳未満	49	35	40	46	56	39	42	47	54	70	35	47	560
30歳～40歳未満	56	57	33	53	53	32	45	45	61	68	40	34	577
40歳～50歳未満	29	45	33	44	42	58	43	42	43	49	41	33	502
50歳～60歳未満	24	37	28	35	40	17	33	19	20	37	35	28	353
60歳～65歳未満	16	13	16	17	14	11	16	19	25	14	12	9	182
65歳～70歳未満	19	21	13	19	19	24	8	14	17	22	19	25	220
70歳～75歳未満	20	13	20	23	18	22	23	22	19	18	11	22	231
75歳～80歳未満	28	14	11	22	22	10	18	23	20	11	11	17	207
80歳～85歳未満	17	9	10	14	17	12	5	12	15	14	17	6	148
85歳～90歳未満	8	13	11	8	13	3	5	14	11	4	4	10	104
90歳以上	5	3	6	2	5	8	5	5	9	8	4	4	64
合計	374	368	324	371	424	298	324	345	397	404	302	312	4243

【平成30年度 年齢別 外来患者件数統計】

実患者数： 23224 名

年齢区分	初診						再診						総計						新来院患者数
	時間内	時間外	休日	深夜	特例時間外	計	時間内	時間外	休日	深夜	特例時間外	計	時間内	時間外	休日	深夜	特例時間外	計	
0日～2歳未満	952	1	18	25	30	1026	2882	0	11	3	5	2901	3834	1	29	28	35	3927	404
2歳～4歳未満	1110	1	21	10	30	1172	3474	0	11	2	4	3491	4584	1	32	12	34	4663	200
4歳～6歳未満	1055	1	15	9	23	1103	3259	0	12	1	7	3279	4314	1	27	10	30	4382	120
6歳～10歳未満	1726	0	14	17	34	1791	3440	0	3	1	8	3452	5166	0	17	18	42	5243	137
10歳～20歳未満	2540	0	58	32	67	2697	4315	1	6	0	5	4327	6855	1	64	32	72	7024	234
20歳～30歳未満	1612	3	124	51	90	1880	2157	0	13	8	10	2188	3769	3	137	59	100	4068	560
30歳～40歳未満	1824	3	143	48	75	2093	4114	0	9	6	15	4144	5938	3	152	54	90	6237	577
40歳～50歳未満	1992	0	134	44	77	2247	8085	0	20	5	13	8123	10077	0	154	49	90	10370	502
50歳～60歳未満	1160	1	100	28	60	1349	10070	0	18	6	13	10107	11230	1	118	34	73	11456	353
60歳～65歳未満	552	2	34	17	26	631	6878	1	14	2	7	6902	7430	3	48	19	33	7533	182
65歳～70歳未満	767	0	31	19	24	841	11779	0	22	7	14	11822	12546	0	53	26	38	12663	220
70歳～75歳未満	731	0	43	13	36	823	16181	0	28	6	19	16234	16912	0	71	19	55	17057	231
75歳～80歳未満	663	0	32	10	23	728	18645	1	48	19	34	18747	19308	1	80	29	57	19475	207
80歳～85歳未満	354	1	23	9	26	413	13531	0	34	11	22	13598	13885	1	57	20	48	14011	148
85歳～90歳未満	227	1	15	4	12	259	6903	2	22	5	12	6944	7130	3	37	9	24	7203	104
90歳以上	125	0	15	2	9	151	4183	0	16	3	10	4212	4308	0	31	5	19	4363	64
合計	17390	14	820	338	642	19204	119896	5	287	85	198	120471	137286	19	1107	423	840	139675	4243

平成30年度
各部署 年次報告

2019年3月31日現在

医療安全管理室

平成30年度目標

1. 他職種・患者家族参加型の医療事故防止活動を推進し、重症事例を減少する
2. 医療安全対策地域連携加算取得のために、相互チェックの体制を構築する
3. 医療安全推進担当者が、自部署での医療安全活動を主体的に行えるよう育成する
4. 心電図モニターアラームに適切に対応するため、無駄なアラームを低減する

平成30年度総括

医療安全管理部門では医療安全管理者の配置交替があり、平成30年度の目標を継続して実践、医療安全管理者としての業務を引き継いだ。

医療安全対策地域連携加算Ⅰに関しては、連携している保険医療機関に赴いて、医療安全対策に関する相互評価を実施した。その評価内容をまとめ報告書として提出、指摘された内容に対する改善策を管理委員会で報告している。また、各部署の医療安全推進担当者(リスク部員)が、自部署の問題を把握して、医療安全活動を計画的に実践できるよう、目標管理の導入について検討を進めている。心電図のアラーム低減に関しては、継続した取り組みができなかったため、今後の課題としていく。

インシデント報告件数 1257件 / 昨年1150件

患者影響レベル3以上の重症事例 45件 / 昨年39件

(職員の針刺し事故9件含む)

平成31年度目標

1. 倫理的課題について倫理委員会と協働して取り組み、医療安全管理マニュアル・医療事故防止マニュアルを改訂、職員へ周知する。
2. 安全確保のためのカンファレンスを定期開催し、内容に基づいて対策をフィードバック、結果を評価し記録しておく。
3. 医療安全推進担当者が自部署の課題に対して目標管理を導入、安全活動の実践内容を評価する。
4. 地域連携病院と医療安全対策に関する相互評価を実施する。

《 医療安全管理室 科長 細沼 睦子 》

薬剤部

平成30年度目標

「意識改革」古い固定概念を捨て、新たな常識を自分たちで作っていく

平成30年度行動目標

1. 病院機能評価や適時調査に対応した基本業務の標準化を行う
2. 病棟担当薬剤師の業務である薬剤管理指導と病棟薬剤業務を見直し、業務を再構築する
3. 財務監査に対応した医薬品の適正な在庫管理を徹底する
4. 抗菌薬の適正使用マニュアルを改訂し、適切な使用を推進する
5. 薬剤師のスキルアップのため症例検討会を定期的を実施する

平成30年度総括

平成30年度は、目標にあげたようにこれまで当たり前に行っていた業務の根本から見直しを行い、新たな体制づくりに着手した1年であった。病棟担当者の業務と調剤室の業務を切り分け、病棟のナースステーション内にも薬剤師の場所を確保させてもらい、病棟担当薬剤師が病棟に常駐できる体制を作ることを行ってきた。また、薬剤科内の病棟-DIカンファレンスを積極的に行うことで、病棟担当薬剤師とDI担当薬剤師が情報を密にすることで、病院全体で使っている医薬品の情報を共有する体制を作ることが出来た。また、担当する病棟も薬剤師によってバラバラであったが、2病棟を2名の担当薬剤師で対応するチーム制を導入した。導入当初は混乱もあったが、フォローがしやすい体制となったため個人の業務負担を軽減することが出来た。また、調剤室の業務についてもチーム分けを行い、チーム会議で業務改善を話し合い、自分達で実施するような流れを作ることが出来た。

平成31年年度行動目標

1. 医薬品の適正使用に向けての取り組みの実施
2. TDM(薬物血中濃度解析)業務の拡大
3. ポリファーマシー状態の解除に向けた取り組みの実施
4. 症例検討会の実施方法の見直し
5. 学会発表と認定取得のための準備と支援

《薬剤科 科長 海老根卓也》

リハビリテーション科

平成30年度目標

1. 回復期リハビリテーション病棟基準アップ
2. ADL維持向上等体制加算取得
3. 療養病床提供単位数アップ

平成30年度総括

スタッフ数は4月当初常勤換算で66.9名であったが、退職、産休などにより3月末では55.4名となりスタッフ数の確保が難しい年であった。

そういった中でも8月に2A病棟でADL維持向上等体制加算、10月に3C病棟で回復期入院料Ⅰの取得が出来た。在宅復帰率は85.6%、計画評価料算定数85.6%とリハビリテーションの効果検証としての指標も目標を達成することが出来た。

今年から集計を始めた退院から訪問・通所・外来への移行率は22%であり、今後も集計を続け、向上を目指していきたい。

平成31年度目標

1. 機能評価に向けてのマニュアル整備
2. 臨床での起動吸入導入
3. 離職率10%の維持
4. 退院患者の外来、訪問、通所への移行の推進

《 リハビリテーション科 科長 櫻場 勝 》

検査科

平成30年度目標

1. 超音波予約外検査(緊急検査以外)への迅速対応
2. 地域イベントへの参加とMCI啓蒙活動
3. 保険点数改訂前後シミュレーションの実施と検査項目見直し
4. 超音波検査技術者の育成
5. 血液製剤廃棄率削減
6. 超音波科内カンファレンスの実施
7. 学会発表による新しい知見の発信と獲得
8. パニック値、重要報告書の見直し

平成30年度総括

超音波検査について、一昨年の腹部エコー担当者は2名減少していたものの、新たな技術者育成や科内カンファレンス等、個々のスキルを磨くことで、この3年間の年件数で約1300件の件数アップを達成した。継続して行っているエコー迅速対応の意識付けの効果もあったと思われた。

昨年度は社会問題となっている軽度認知症(MCI)の検査を実施出来る体制を整えた。そして今年度は吉川市オアシスで、吉川市長寿支援課と地元のサポート医と連携して認知症イベントに参加した。医師の講演に続き、スライド講演等を行った。参加者150名程で多くの方々から問い合わせなどがあつた。

学会発表では、浜松で行われた日本医学検査学会にて、「腹部超音波における肝腎コントラスト偽陽性改善走査法(肋間HRC)の有用性について」を発表した。本邦では初の走査概念の提唱であつた。

2年前より、緊急報告値の対応について厳密に病院内でルール化し、医師、検査技師、看護師、メディカルクラークに周知の上、運用している。生命予後に関わるデータが遅延なく医師に伝わり処置に取り掛かれる体制である。現行の値が適正か、定期的に見直しを検討していきたい。

平成31年度目標

1. 超音波予約外検査(緊急検査以外)への迅速対応
2. 地域イベントへの参加と検査啓蒙活動
3. SWEの導入による質の向上と増収
4. 各超音波検査技術者の育成
5. 血液製剤廃棄率削減
6. 超音波科内カンファレンスの実施
7. 学会発表による新しい知見の発信と獲得
8. 誤認防止のための運用変更

《 検査科 係長 野本 隆之 》

放射線科

平成30年度目標

1. 安定した組織体制にて医療を提供する人員の確保
2. モダリティ別活動の推進
3. 地域の医療機関との連携強化
4. 保険外収入の検診増加への対応
5. MRI検査件数の増加
6. 対外的発表と学会への参加、院内勉強会の実施
7. 医療安全文化の定着
8. モニタ管理による画質担保とPACKSのスムーズな更新

平成30年度総括

放射線技師数を昨年度の9名から11名と新人2名を増員することが出来たが、退職者が2名出てしまい、人員数としては増やすことが出来なかった。引き続き安定した組織体制の為に人員の確保が課題である。CTとMRIについては担当班を振り分けることで活発な活動が行えた点が良かった。地域との連携では紹介検査数を前年度より約4%UPを達成し、健診MDLについては15%UPを達成した。対外的発表は2演題発表したが、学会参加と院内勉強会は目標を達成することが出来なかった。医療安全ではインシデント報告件数が年54件と前年度の倍以上となり定着が図れたと言える。モニタ管理は継続して実施することが出来、PACSの更新も大きな問題が発生することなく更新することが出来た。

平成31年度目標

1. 安定した組織体制にて医療を提供する為に最低人員の確保
2. モダリティ別活動の継続
3. 地域の医療機関との連携強化
4. 保険外収入の検診増加
5. CT・MRIの安定稼働
6. 対外的発表と学会への参加、院内勉強会の実施
7. 医療安全報告の習慣化
8. 一般撮影マニュアルの改訂とDRL(医療被ばく)の低減

《 放射線科 科長 笹川 拓也 》

栄養科

平成30年度目標

1. 入院栄養指導件数増 40件/月
2. 近隣病院・施設との連携 栄養サマリー作成
3. 新人育成
4. 食事での患者満足度向上 満足度83%以上

平成30年度総括

人事に関しては3名体制であったが、6月に1名退職にて2名体制に減り、12月に1名入職となり3名体制に戻った。

給食委託業務に関してはエムティーフードと継続にて契約更新している。

臨床実習に関しては、3/4～3/16の期間で十文字学園女子大学の実習生2名を受け入れた。

目標管理について、目標1.では47件/月と達成、人員体制が不十分であり指導件数の伸び悩みはあるが目標3.の新人育成の継続により来年度は件数増加に期待が出来る。目標2.は保健所管内の近隣病院・施設との情報交換会に年2回参加することによりお互い顔の見える関係が築けた。患者様の栄養サマリーのやりとりにより途切れのない栄養管理を目指していきたい。今年度は14件増の42件のサマリーを提供できた。目標4.では上期84%と目標達成、下期は74%と達出来ず。今後頂いたご意見を参考に更なる改善が必要と考えている。

平成31年度目標

1. 入院栄養指導件数増 50件/月
2. 近隣病院・施設との連携 栄養サマリー作成
3. 新人育成
4. 食事での患者満足度向上 満足度80%以上
5. コスト業務へ集中できるよう業務改善

《 栄養科 主任 矢口 千恵 》

総務課

平成30年度目標

1. 適正な人員確保
2. 経費節減(委託費・手数料の見直し)
3. 人材育成の強化
4. 施設基準の監査

平成30年度総括

適正な人員確保を把握した上で求人活動に努めたが、医師、看護師の確保は円滑に遂行できたとは言い難い状況であった。また、看護補助者の求人活動についても大変苦労した。人材確保にはより尽力する。

人材育成については、外部研修等を活用し、職員のスキルの底上げを行った。離職防止策として、ストレスチェック制度を活用し、面談を通じて職員の健康管理及び把握、そして業務の負担軽減に努めた。

経費節減では業務委託、保守契約、購入先の変更等の見直しを行った。今後も継続的に年1度は実践していく。

実務では、業務習熟度の向上を目的に、定期的な総務課職員間での業務のローテーション化を行った。

平成31年度目標

1. 適正な人員確保
2. 経費節減
3. 人材育成の強化
4. 施設基準の監査

《 総務課 主任 小林 裕治 》

医事課

平成30年度目標

1. 返戻査定の減少
2. CMS事務職認定試験勉強会の開催
3. 医事課業務改善ミーティングの実施
4. 施設基準管理体制の構築

平成30年度総括

平成30年度の返戻率は平均1.19%、査定率は平均0.15%の結果となった。前年比で返戻率0.43%減少、査定率0.08%減少の結果。直近5ヶ月では最も低い値となった。課内のミーティングでは継続して返戻査定の傾向と対策を周知。実施回数は減少したものの、返戻率、査定率共に減少した結果となった。

CMS事務職認定試験の勉強会を開催。初級、中級、上級の医事課の範囲の勉強会を実施。試験範囲を網羅し勉強会を行い、上級合格者1名、初級受験者全員合格の結果となった。

医事課業務改善のミーティングの定期開催(計12回)を目標とした。12回中9回実績。医事課の人員減少や人事異動の影響もあり開催できない月が3回の結果に至った。インシデントの報告と確認、対策の立案までを行い、日常業務の効率化に反映させるべく定期開催を目指した。来年度も継続した開催を行う。

施設基準基準管理に向けた検討会を実施。年4回を目標設定。結果として1回検討会を行った。掲示物管理を目的とした院内ラウンドの検討を行った。施設基準に関わる掲示物確認(2ヶ月に1回)を来年度の目標とする。

平成31年度目標

1. 返戻査定の減少
2. CMS事務職認定試験勉強会の開催
3. 医事課教育マニュアルの策定
4. 院内掲示物確認ラウンドの実施

《 医事課 係長 古澤 智樹 》

患者家族支援課

平成30年度目標

1. 患者の意思を尊重した退院支援を行う
2. 在宅療養支援ベッド事業開始(スムーズな入退院・転院調整)
3. 入院時支援加算取得の仕組み作り
4. 相談員の質の向上
5. 看護実習生受け入れ(獨協越谷 上尾)

平成30年度総括

診療報酬改定で新たにできた入院支援加算については、7月に届け出を提出することは出来たが、実際に取得する件数は少なかった。外来患者のスクリーニングがうまく出来ず、情報収集する看護師不足もあり積極的な取得には至らなかった。

入退院支援加算、介護支援連携加算については、外部関係者と顔の見える関係作りを積極的に行っていたため取得件数の増加に繋がった。

連携業務は多種多様で病院により行っている業務の違いもあり、業務内容の整理や見直しが必要であると考えている。今年度末に2名退職者が出ってしまった。

次年度は業務改善もかねて他部署との役割分担を目標に挙げる。連携業務の見直しと、看護部の退院支援看護師の育成をするため、部会を立ち上げ、退院支援・調整の必要性を周知させていきたい。

平成31年度目標

1. 患者の意思を尊重した退院支援を行う
2. 在宅療養支援ベッド事業継続、近隣施設・病院との連携を図る
3. 入院時支援加算取得、退院調整加算①の継続、退院前カンファレンス(介護支援連携指導料・退院時共同加算2)を積極的に開催していく
4. 相談員の質向上 看護部退院支援部会の運営
5. 他部署との連携、役割分担

《 患者・家族支援課 係長 吉田 美智子 》

健康管理課

平成30年度目標

1. 受診者数の増加と安定的確保(リピーターの確保・新規保険組合との契約)
2. 曖昧であった健診内容の流れをマニュアル化する
3. 要精査判定の方への二次検査受診案内の徹底

平成30年度総括

非常勤医師の退職に伴う入れ替え、健康管理課事務スタッフの異動や退職に伴う入れ替えなどによるマンパワー不足の時期が繁忙期に重なった。

閑散期に2名の事務スタッフを採用し、知識面・業務面での教育を進めている。

また、来年度に向けてシステムの見直しをしたところ、人間ドック学会の検査基準値の変更や第3期特定健康診断項目の変更が出来ておらず、平成31年度に向けて調整中である。

消化器科のみ二次検査予約が可能であったが、内科も予約が出来るようにし、今年度は二次検査受診率が17%であった。来年度より、二次検査受診案内票を送付し、外来受診率+8%UPの達成を目指す。

健康管理課独立後、新規保険組合の契約数増加や、指定医療機関としての認知度の高まりもあり、受診者数は着実に上り坂であったが、今後は平坦になることが予想される。一時中止となっている事業所への営業を再開するまでは、売上単価の増加を目指す。

来年度から実施される新事業である、がん健診受診時の企業へのインセンティブなどを企業側へ周知し、基本健診+がん検診の受診につなげ、健診単価の増加を目指していきたい。

平成31年度目標

1. 健康管理課新規メンバーにてスムーズな案内・対応
2. 職員個人の検査知識の向上
3. 二次検査外来受診率+8%UP目標
4. 売上単価の増加

《 健康管理課 三澤 瑞希 》

Yoshikawa Central General Hospital